

概 要

1 気象概況

- 気象庁資料からみた、平成19年の月別の気象概況は、以下のとおりである -

1月 全国的に高温、北日本と北陸以西の日本海側で記録的な少雪となった。

上旬は、前半は本州の南海上を低気圧や前線が通過しやすく、日本海側で晴れる日がある一方、太平洋側では曇りや雨の日が多かった。なお、7日以降一時的に強い冬型の気圧配置となったことから西日本から北日本にかけては暴風、高波、大雨、北海道のオホーツク海側や太平洋側東部では大雪となった。

中旬は、北日本を中心に冬型の気圧配置が続いたが、強い寒気の南下は一時的だったため、日本海側の降雪量は少なく、太平洋側は晴れの日が多かった。

下旬は、低気圧が短い周期で日本の南海上や北日本付近を通過したため、冬型の気圧配置は一時的で、北・東日本の日本海側は曇りや雪の日が少なかった。

2月 全国的に顕著な高温と少雪、日本海側を中心に顕著な多照となった。

上旬は、低気圧が通過し、天気は数日の周期で変わったが、北日本では強い寒気の南下はなく、気温の高い日が続いた。

中旬は、高気圧と低気圧が交互に日本付近を通過し、天気は数日の周期で変わった。14日は低気圧が発達しながら日本海を通過し、太平洋側の一部で大雨となったほか、各地で強風が吹き荒れた。

下旬は、移動性高気圧に覆われて晴れる日が多かった。

3月 全国的に気温は高かったが、変動が大きかった。

上旬は、前半は移動性高気圧に覆われ晴れて、気温は東・西日本を中心にかなり高かった。後半は冬型の気圧配置が続き、日本海側で雪や雨となり、全国的に気温が低くなった。

中旬は、冬型の気圧配置が続き、全国的に気温が低く、日本海側では大雪になった所もあった。

下旬は、数日の周期で低気圧と高気圧が通過した。移動性高気圧に覆われ晴れたり、日本海の低気圧に向かって暖かい空気が流れ込んだことから、全国的に気温がかなり高く経過した。

4月 北・東日本では気温が低く、降水量はほぼ全国的に少なかった。

上旬は、前半は低気圧や前線が通過した後、寒気が入り、全国的に低温となった。後半は低気圧と高気圧が短い周期で日本付近を通過し、北日本と南西諸島では曇りや雨または雪の日が多かった。

中旬は、低気圧が短い周期で通過した。通過後は寒気が入り、全国的に低温となった。

下旬は、前半は前線が本州南岸に停滞したため、本州以南では曇りや雨の日が多かった。後半は高気圧に覆われて晴れた日が多かったが、28日には低気圧の通過により、東日本を中心に雷雨となった。

5月 東・西日本では日照時間が多く、気温も高かった。

上旬は、低気圧や前線が頻繁に通過し、天気は短い周期で変わった。

中旬は、北日本では低気圧が頻繁に通る、曇りや雨の日が多かった。東・西日本では高気圧に覆われ晴れる日が多かった。

下旬は、低気圧が通過した日を除き、移動性高気圧に覆われ、晴れる日が多かった。

10日、17日には、上空に寒気が入ったため、広い範囲で雷や突風があった。

西日本では降水量の少ない状況が続いた。

6月 全国的に気温が高く、特に西日本では降水量が少なかった。

中旬までは、梅雨前線が南西諸島から日本のはるか南海上に停滞することが多く、北・東日本ではおおむね晴れの日が多かった。西日本では、低気圧や前線の影響は小さく、降水量が少なかった。

下旬は、南海上の太平洋高気圧が強まり、梅雨前線が日本海や九州南部付近に位置する日が多くなったことから、本州の日本海側ではまとまった雨となり、鹿児島県では大雨となったが、九州北部や東・西日本の太平洋側では降水量が少ない状態が続いた。

7月 全国的に気温が低く、東・西日本では多雨・日照不足となった。

上旬は、活発な梅雨前線が本州付近に停滞し、東・西日本では曇りや雨の日が多く、九州地方を中心に大雨となった。北日本では、高気圧に覆われ晴れの日が多かった。

中旬は、停滞した梅雨前線の影響で、北日本の太平洋側と東・西日本では曇りや雨の日が多かった。また、台風第4号が13日に南西諸島を通過後、14日に鹿児島県に上陸し、15日にかけて本州南岸を東進したため、東・西日本の太平洋側と南西諸島を中心に暴風雨となった。

下旬は、北・東日本では、低気圧や前線の影響を受けやすく、曇りや雨となった。

九州以北の梅雨明けは、太平洋高気圧の北への張り出しが遅かったため、全般に平年より遅かった。

8月 全国的に気温が高く、東・西日本では顕著な高温となった。

上旬は、北日本では低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多かった。台風第5号が、2日に宮崎県に上陸したことから、九州地方や四国地方を中心に暴風雨となった。

中旬は、北日本から西日本に向け、太平洋高気圧に覆われ、連日晴れて暑い日が続いた。16日には熊谷（埼玉県）、多治見（岐阜県）で40.9 と観測史上最も高い気温を記録するなど、記録的に晴れて暑い中旬となった。

下旬は、前半も東・西日本では晴れて暑い日が続いたが、27日から30日にかけて前線がゆっくりと南下、各地で大雨となったほか、著しい高温も収まった。

9月 全国的に気温がかなり高く、東・西日本では記録的な高温となった。

月を通して太平洋高気圧に覆われることが多く、特に中旬から下旬前半にかけては勢力が強まり、東・西日本では晴れて暑い日が多く、月平均気温は1946年以降西日本が第1位、東日本が第2位の高い記録となった。

秋雨前線の活動は月を通すと不活発だったが、5日から7日にかけての台風第9号の影響による北・東日本の太平洋側の記録的な大雨、14日から15日にかけての台風第11号と18日の台風第12号による沖縄地方の暴風を伴った大雨、秋雨前線上を東進した台風第11号から変わった低気圧の影響による17日の東北地方の記録的な大雨など、各地で大雨が観測された。一方、秋雨前線や台風等の影響が小さかった東日本の日本海側と西日本では、降水量はかなり少なかった。

10月 全国的に気温が高く、降水量もおおむね少なかった。

全般的に天気は数日の周期で変わったが、日本海側を中心に高気圧に覆われて晴れの日が多かったため、ほぼ全国的に気温が高かった。

なお、5日から7日にかけては台風第15号が先島諸島に接近し、沖縄地方では大雨や暴風となり、8日から9日にかけては台風から変わった低気圧と前線の影響で九州北部地方を中心に大雨となった。26日から27日にかけては台風第20号の影響で本州南岸の前線の活動が活発となったため、東・北日本の太平洋側を中心に大雨や強風となった。

降水量は前線や台風の影響を受けた一部地域を除き、少なかった。

11月 全国的に前半は高温、後半は低温と気温の変動が大きかった。

上旬は、北日本から西日本にかけては移動性高気圧に覆われることが多く、晴れて気温も高かった。

中旬は、11日から12日にかけて、北日本で低気圧が発達し、青森県や岩手県で大雨となった。15日から16日にかけて前線が南下、全国的に寒気が入り、さらに17日以降、低気圧が日本の北東で発達し、一段と気温が下がった。また、北日本や東日本の日本海側では雪となった。

下旬は、北日本を中心に冬型の気圧配置が続き、気温の低い日が続いていたが、旬半ばになって冬型の気圧配置も緩み、気温も平年を上回るようになった。26日から27日にかけて、沖縄地方では台風第23号の影響で大雨となった。

12月 東日本以西では高温、東・西日本と北日本の太平洋側では多雨・寡照となった。

冬型の気圧配置となる日は少なく、低気圧や気圧の谷が日本海から北日本を通過することが多かったため、東日本の日本海側では曇りや雨、北日本の日本海側では曇りや雨または雪の日が多かった。北・東日本の太平洋側と西日本では、平年と比べて晴れの日が少なく、天気は数日の周期で変わり、低気圧の影響で10日前後の周期でまとまった雨が降った。また、28日から29日にかけては、低気圧が発達しながら日本付近を通過したため、太平洋側の一部で大雨となったほか、北海道東部では大雪となった。その後、強い冬型の気圧配置となり、西日本各地で初雪を観測したほか、日本海側では山沿いを中心に大雪となった。

北日本では、10日前後の周期で寒気が南下したため、気温は平年並みとなったが、東日本以西への寒気の南下は弱く、気温は高くなった。降雪量は、北・東日本の日本海側ではかなり少なかった。

表1 梅雨入り・梅雨明けの状況（平成19年）

（梅雨入り）

地 域	本年	平年	前年
沖 縄	5月 16日頃	5月 8日頃	5月 14日頃
奄 美	5月 26日頃	5月 10日頃	5月 11日頃
九州南部	6月 1日頃	5月 29日頃	5月 26日頃
九州北部	6月 13日頃	6月 5日頃	6月 8日頃
四 国	6月 13日頃	6月 4日頃	6月 8日頃
中 国	6月 14日頃	6月 6日頃	6月 8日頃
近 畿	6月 14日頃	6月 6日頃	6月 8日頃
東 海	6月 14日頃	6月 8日頃	6月 8日頃
関東甲信	6月 22日頃	6月 8日頃	6月 9日頃
北 陸	6月 21日頃	6月 10日頃	6月 15日頃
東北南部	6月 21日頃	6月 10日頃	6月 9日頃
東北北部	6月 29日頃	6月 12日頃	6月 15日頃

（梅雨明け）

地 域	本年	平年	前年
沖 縄	6月 21日頃	6月 23日頃	6月 20日頃
奄 美	6月 28日頃	6月 28日頃	6月 22日頃
九州南部	7月 18日頃	7月 13日頃	7月 25日頃
九州北部	7月 23日頃	7月 18日頃	7月 26日頃
四 国	7月 23日頃	7月 17日頃	7月 26日頃
中 国	7月 23日頃	7月 20日頃	7月 26日頃
近 畿	7月 24日頃	7月 19日頃	7月 27日頃
東 海	7月 27日頃	7月 20日頃	7月 26日頃
関東甲信	8月 1日頃	7月 20日頃	7月 30日頃
北 陸	8月 1日頃	7月 22日頃	7月 30日頃
東北南部	8月 1日頃	7月 23日頃	8月 2日頃
東北北部	8月 11日頃	7月 27日頃	8月 2日頃

注：気象庁資料による。

2 被害概況

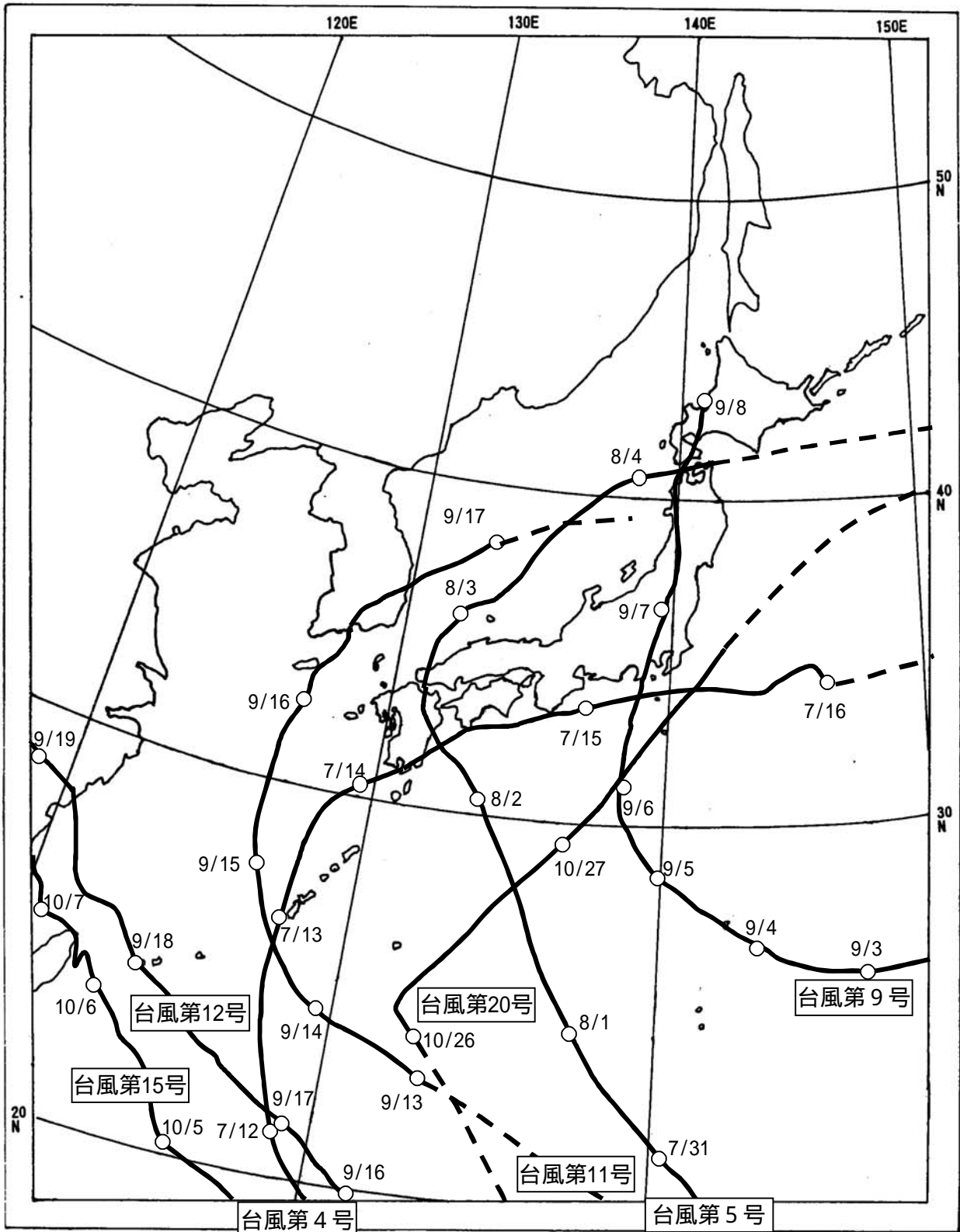
平成19年は、大型で非常に強い台風第4号（7月13日～15日）等により、宮崎県及び鹿児島県の水稲（早期米）を中心に、128億円の農作物被害が発生した。

このほか、宮崎県に上陸した台風第5号（8月2日～4日）により23億円、神奈川県に上陸した台風第9号（9月6日～8日）により32億円、9月15日～18日にかけての東北地方の大雨により11億円の農作物被害が発生した。

表2 平成19年に発生した主要災害種類別被害概要（総数）

災害種類名	被害発生時期	被害面積 ha	被害見込金額 億円	主な被害農作物	主な被害地域
台風第4号及び 梅雨前線による 大雨	6月28日～ 7月15日	94 400	128	水稲、葉たばこ、 さとうきび	宮崎県、鹿児島県、沖縄県
台風第5号	8月2日～ 4日	62 300	23	水稲、日本なし、 さとうきび	熊本県、徳島県、宮崎県
台風第9号	9月6日～ 8日	42 800	32	水稲、西洋なし、 りんご	山形県、茨城県、群馬県
東北地方の大雨	9月15日～ 18日	8 870	11	水稲、大豆、 りんご	秋田県、岩手県

3 平成19年に日本列島に上陸・接近した台風経路図



- 注： 1 経路上の 印は傍らに示した日の午前9時の位置を示す。
 2 経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧・温帯低気圧の期間を示す。
 3 気象庁資料から作成した。